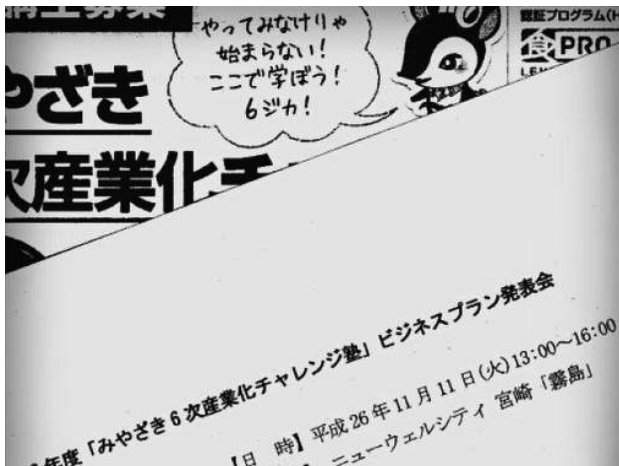


酒とパソコンと少々ミルク

ビジネスプラン発表会

成光 昭男

11月11日は、ニューウェルシティ宮崎で、「みやざき6次産業化チャレンジ塾」の最終日、ビジネスプランの発表会、閉講式がありました。



未熟者ではありますが、講義のひとつを担当させて頂いた縁で、私もこの素晴らしいビジネスプラン発表会に同席することができましたので、報告させていただきます。

このチャレンジ塾とは、公益社団法人宮崎県農業振興公社が主催し、6次産業化にチャレンジしたい農林漁業者や6次産業化を推進・支援する方を対象とした塾で、食品加工、商品開発、販売戦略や財務の基礎からビジネスプランの作成方法まで、幅広い内容で、県内外の講師陣が結集し、講義を行ったものです。

チャレンジ塾にはグローバル農業法人育成コース(農林漁業者向け)とプロデュースコース(支援者向け)があり、募集人数各20名のところ、受講希望者が殺到し、両コース合わせて、定員を大きく上回る67名の方が受講され、担当者は会場確保にご苦労されたようです。

8月1日から、3ヶ月半に及ぶ長丁場、ほぼ毎週、延べ15日間にわたり幅広い内容の講義や演習が行われ、かなり気合の入った塾でした。

自らの仕事を抱え、日々多忙を極める中で、遠方からの受講生もおられ、このハードな塾の全講座の受講を修了された受講生の皆様の意気込みは、正に「あっぱれ!」でした。

塾では、事業計画書の作成演習も行われ、すべ

での受講生が研修の集大成として、ビジネスプランを策定されましたが、そのうち14名の方が、自ら進んで手を上げ、ビジネスプランのプレゼンテーションが行われました。

自ら情報を発信する者は、より多くの情報を得るものですね。自ら進んでプレゼンテーションに挑んだ方々に対し、講師の熊本伊織氏((株)コネクト・アグリフード・ラインズ 代表取締役)から、一つひとつ丁寧な講評があり、発表者にエールを贈られ、受講生はもとより、出席者全員、深い感銘を受けた発表会となりました。



受講生のビジネスプランの発表を聞きながら、様々な課題を抱えながら、それらの課題をどうにかして解決したい、自らの夢を実現したいという気持ちに接し、できない理由を探すのではなく、できる工夫をすることが大切であると感じたところです。

6次産業化にチャレンジする場合、これまでの農業経営の延長ではなく、乗り越えなければならぬ壁がいくつかあります。それらを乗り越えるためには、新たな知識も必要です。柔軟な発想も必要です。プレゼンテーションの力も必要です。受講生はこの塾で多くのことを学び取り、また気づきもあったのでしょうか。

閉講式後のディナーミーティング(懇親会)では、志を持つ同志として大いに飲み、それぞれの夢の実現へ向けての決意を語り、交流を深めました。